

上川管内 校長会	会 報	発行 上川管内校長会
		【事務局】旭川市6条通4丁目 上川教育研修センター3F TEL(0166)25-1350 FAX(0166)29-2115
		会長 南部和紀 編集 広報部
		令和4年度 第1号 (157号)



変化?! 進化?!

上川管内校長会長 南部和紀
(東川町立東川小学校長)

いきなり私事からで恐縮ですが、私の趣味の一つに囲碁があります。幼少期、アマチュア2～3級程度と思われる祖父とアマチュア初段程度と思われる父から手ほどきを受けました。習いたてのころは、一手一手の意味がほとんど分からず、正直、面白いと思ったことはなかったことを記憶しています。

それから少し時間が経ち、転機が訪れました。小学校5年生のときです。父から子ども向けの囲碁のテキストを与えられました。読んでみると（読みながら石を並べてみると）、一手一手の意味がよく分かるようになってきたのです。……そこから、一気に“はまり”ました。お小遣いを貯めては、当時開店したばかりの西武デパート（旭川駅前）の中にあった“三省堂書店”に足繁く通い、囲碁の本を購入しては勉強しました。朝、小学校に登校する前のルーティーンは、新聞に掲載されているプロの棋譜を並べることでした。

このころ、飛躍的に棋力が向上したと思われます。私の父に対する置石（ハンディキャップ）はみるみる減り、あっという間に互先（たがいせん＝ハンディキャップがないこと）になりました。最終的には、父に4子置かせるまでになりました。……前置きが半分長くなってしまいました。

あるトップクラスの高名なプロ棋士が、こんなことを言っていた（書いていた）のを覚えています。「棋力（囲碁の実力）には、進歩か後退かしかない。現状維持は、後退である。」

少しニュアンスは異なるかもしれませんが、次にダーウィンの言葉を紹介します。

「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである。」

植松電気の植松努氏は、次のように言っています。「真の退化とは、変化しないことだそうです。」

上川管内校長会では、昨年度、紺野前会長の諮問を受け、「組織検討委員会」を立ち上げました。主に研修会の在り方と会計・予算について、議論を重ねました。

今年度は、それらを受けての「改革1年目」の年になります。

大きな変更点としては、7月末に実施していた地区別研修会を廃止したこと、収入減少に伴う予算編成に関わって支出を抑える工夫をしたことの2点です。

そのほかにも、「変えるべきこと」「変えた方がいいこと」があれば、前向きに検討して、できることから改善をしていきたいと思えます。

また、必要に応じて、情報収集・情報提供・情報共有・情報交流に努めます。

変化を恐れず、進化を目指す!

今後も、上川管内校長会は、上川教育局や市町村教育委員会の指導を仰ぎながら、市町村校長会と連携し、校長が一人で悩むことのないよう89名の校長が結束し、教育課題に迅速・適切に対応してまいります。今後とも温かい御理解と御協力のほど、よろしく願いいたします。



会報の発刊に寄せて

北海道教育庁上川教育局長 岸 本 亮

上川教育の発展に多大なる功績と足跡を残してこられた上川管内校長会が、この度、「会報157号」を発刊されますことに、心からお喜び申し上げます。

貴会におかれましては、教育課題の解決に向け、関係機関・団体と連携を深め、組織的・計画的に実践を積み重ね、管内教育の充実・発展に、多大な御尽力をいただいておりますことに、深く敬意を表します。

また、貴会会員の皆様には、学力や体力向上の取組をはじめ、児童生徒の健やかな成長に向け、リーダーシップを遺憾なく発揮していただいておりますことに、厚く感謝を申し上げます。

さて、社会の在り方が劇的に変わり、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」が到来する中で、再認識された学校の役割や課題を踏まえ、「令和の日本型学校教育」の実現が求められています。

上川管内に目を向けますと、各学年の児童生徒数は、10年前の4000人台から約1000人減少し、今後10年でさらに約1000人減少するなど、一人の子どもも取り残すことのできない時代を迎えます。

そのため、各学校においては、誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、児童生徒が「持続可能な社会の創り手」となることができるよう、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し納得解を生み出すなど、学習指導要領で示された資質・能力を育成することが重要です。

また、教師は、児童生徒一人一人の学びを最大限に引き出すために、教職生涯を通じて探究心をもちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続けることが大切です。

こうした中、貴会が「ふるさとを愛し、他者と共に持続可能な社会の創り手となる児童生徒を育てる学校教育の推進」に向け、校長自らが自身の資質能力の向上を目指し不断の研鑽に努めるとともに、「創意と活力に満ちた学校経営の推進」及び「社会に開かれた教育課程の推進」に取り組み、北海道教育をリードする教育活動の充実・発展に寄与されていることは、誠に心強い限りです。

今後とも、上川管内の各学校、地域の特色等を踏まえ、持続可能な学校教育の中で教育成果を維持し、向上させることができるよう、学校における働き方改革を進め、学校管理職の適切なマネジメントの下、教職員の資質・能力の向上を図り、児童生徒の学びの充実に向けた教育活動の一層の推進を御期待申し上げます。

上川教育局といたしましては、教育活動の一層の質の向上に向けて、貴会及び学校と手を携えながら、効果的で質の高い施策の推進に取り組んでまいりますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、貴会の今後益々の御発展と、会員の皆様の御健勝を心から祈念申し上げ、発刊に寄せる言葉といたします。



新教育長のご紹介



南富良野町教育委員会
教育長

すず き まこと
鈴木 誠

- ・生年月日 昭和37年10月8日
- ・出身地 南富良野町字幾寅
- ・就任年月日 令和4年5月9日
- ・前 歴 南富良野町議会事務局長
- ・信 条 朝起き、正直、働き



上富良野町教育委員会
教育長

すず き ま ゆみ
鈴木 真弓

- ・生年月日 昭和36年7月20日
- ・出身地 上富良野町
- ・就任年月日 令和4年4月1日
- ・前 歴 上富良野町役場保健福祉課長
- ・信 条 一期一会



上川町教育委員会
教育長

たて やま たか よし
館山 孝佳

- ・生年月日 昭和44年1月2日
- ・出身地 上川町
- ・就任年月日 令和4年4月26日
- ・前 歴 上川町役場税務住民課長
- ・信 条 日々努力

上川管内教育長氏名一覧(敬称略)

市町村名	氏 名
占 冠 村	多 田 淳 史
南富良野町	鈴 木 誠
富 良 野 市	近 内 栄 一
中富良野町	鈴 木 晶
上富良野町	鈴 木 真 弓
美 瑛 町	千 葉 茂 美
東 神 楽 町	金 谷 昭
東 川 町	杉 山 昌 次
愛 別 町	馬 場 信 明
比 布 町	北 川 範 之
上 川 町	館 山 孝 佳
当 麻 町	中 村 欣 也
鷹 栖 町	上 西 義 幸
和 寒 町	沓 澤 昭 一
剣 淵 町	半 田 幸 清
士 別 市	中 峰 寿 彰
幌 加 内 町	村 上 雅 之
下 川 町	川 島 政 吉
名 寄 市	小 野 浩 一
美 深 町	草 野 孝 治
音 威 子 府 村	高 曾 根 誠
中 川 町	高 橋 信 行
旭 川 市	黒 蕨 真 一

令和4年度上川管内教育の推進に向けて

ふるさとを愛し、夢と志をもって、可能性に挑戦するために 安心・安全 学力向上

I 豊かな人間性の育成

- 1 道徳教育等の充実
- 2 いじめの防止や不登校児童生徒への支援の取組の充実

II 社会で生きる力の育成

- 1 学校・地域における確かな学力の育成
- 2 特別支援教育の充実
- 3 体力・運動能力の向上

III 安心・安全に学ぶことのできる学校・地域づくり

- 1 児童虐待への対応強化
- 2 学校段階間の連携・接続の推進
- 3 学校運営の改善
- 4 学校安全教育の充実
- 5 学びを支える家庭・地域との連携

IV その他 管内教育に必要な事項

- 1 ふるさと教育の充実
- 2 国際理解教育・キャリア教育の充実
- 3 健康教育の充実
- 4 社会教育の振興

採用校長、決意を新たに「上川らしい教育の推進」に向けて

新たな学びの実現を目指して

名寄市立風連中央小学校

石坂 剛



本校は、名寄市風連地区に残る唯一の小学校です。110名の児童が、平成31年に完成した新しい校舎で伸び伸びと学んでい

ます。

令和2年度からは、風連中学校と共に施設分離型小中一貫教育を進め、「地域と共に育ち たくましく未来を生き抜く 子供の育成」に向けて取り組んでいます。今年度は特にWell-beingを追求し、「知・徳・体」の「徳」に重きを置いて返事・挨拶・感謝を伝えられる子の育成を目指しています。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、感染対策に取り組みつつ、新しい時代の学びを実現することは学校の使命です。家庭も地域も、雑巾の寄贈や登下校の見守りなど今できる最大限の協力で学校を支えてくださっています。私も制約や逆境を変革の機会と捉え、校長のリーダーシップを発揮して、安心・安全のもと確かな学力を育成する学校づくりに努めてまいります。

子どもたちが輝く学校づくりを目指して

美深町立仁宇布小中学校

石本 義行



今年で開校107年を迎える本校は、豊かな自然と保護者・地域の子どもたちへの深い愛情に包まれた学校です。昨年度から

新校舎に移行し、美深で育った木の温もりを感じる校舎と美しい自然環境の中で、教育目標「生きる喜びを見だし、創造する子ども」の達成を目指して教育活動を推進しています。

今年度の重点目標は、「子どもの学びを深め、広げ、活かす学校づくり」です。美深町と仁宇布の豊かな教育資源を有効に活用し、本校の特色である山村留学制度、へき地複式教育、小中乗り入れ授業、専科教育等を一層充実させ、子どもたちの社会で生きる力の育成を目指したいと思います。

今年度の学校経営の合言葉は「繋がり」です。家庭・地域と連携し、「学校のよき伝統」「人」「学び」を繋ぎ、子どもたちが力を高め、一人一人が輝く学校づくりを推進したいと思います。

「社会で生きる力の育成」を目指して

音威子府村立音威子府小中学校

岩谷 孝二



「おといねっぷ」は、北海道の名が生まれた場所です。幕末の探検家・松浦武四郎が音威子府で野営し、その時出会ったアイヌの古老から「カイナー（この国に生まれたもの）」という言葉が教えられ、後に「北海道」と命名される「北加伊道」という地名を発想した由緒ある地です。

また、春夏秋冬の彩りが楽しめる体験の里でもあります。本校は、その村内唯一の小中学校です。

今年度は、「確かな学力を身に付け、自分の思いや考えを的確に伝えながら、主体的に課題解決をしようとする子どもの育成」を重点教育目標にしております。その上で、ICTを有効活用しながら、授業改善を進め、教職員が丸になって「社会で生きる力の育成」を目指して学校経営に全力で努めてまいります。

美瑛町の美しい丘で目指すもの

美瑛町立美馬牛中学校

大柄 洋樹



美しい自然の丘陵に建つ本校は、これまでに2,067名の卒業生を世に送り出してきた小規模校です。地域・保護者は子ども

の教育に熱心で、校区の小中学生を対象にボランティア活動などを行う「少年団」が組織され、地域・保護者の方が運営に当たっています。

本校では子ども一人一人に寄り添い、個に応じた教育を行うことが日常化しています。さらに、目標を共有し地域ぐるみで教育を行うことが求められています。令和5年度より美馬牛小学校と美馬牛中学校は、小中一貫教育へと移行します。美馬牛では、義務教育9年間で身に付けさせたい力を地域・保護者・教職員の声を参考に策定しました。次は、具体的に何をするかです。子どもに、自己実現を果たすことのできる力を身に付けさせるために、地域や小中2校が相互に関わる仕組みづくりに精一杯努めてまいります。

地域とともにある信頼される 学校を目指して

名寄市立智恵文小学校

太田 健



天塩川流れる緑豊かな智恵文は、自然や保護者・地域の方々の愛情と教育力に支えられて教育活動を推進できる恵まれた地域です。本校はこの地に開校し119年を迎えましたが、平成29年度より小中一貫コミュニティ・スクールとして地域との連携・協働を進め、令和6年度には智恵文中学校と一体化し、義務教育学校「智恵文小中学校」を開校します。現在、両校の教職員が知恵を出し合い、9年間を通して子ども

の資質・能力を育むべく、小中一貫教育の準備を鋭意進めているところです。今後も、教育目標「自ら学び、未来をたくましく生き抜く智恵文の子」の実現に向け、個に応じたきめ細かな指導を基盤に、家庭との緊密な連携、地域の教育力やICTなどを生かした多様な教育活動を教職員一丸となって推進し、子どもの成長の姿を通してより信頼される学校づくりに努めてまいります。

子どもを主語にした学校を目指して

名寄市立名寄小学校

小野 直久



本校は、平成24年より、道教委の「学校力向上に関する総合実践事業」における学校指定や地域指定を受け、市内の全小中

学校とともに包括的な学校改善を推進してきました。今年度は、新学習指導要領で従前の「地域や学校、児童の実態」から「児童や学校、地域の実態」と順序が改められたように、子ども（学習者）を中心とした学習への転換を図るため、これまでの学校組織からインノベーション組織への変革を目指しています。具体的には、安心して仲間に頼ることができる心理的安全性の高い学校文化を醸成することや、教職員が気軽に内面的な多様性（価値観、専門性、スキルなど）を発揮できる場を創ることに努めています。校長として163名の児童と学校に関わる全ての大人のウェルビーイングが実現される「子ども一人一人を主語にした笑楽校（しょうがっこう）」づくりに尽力してまいります。

夢や希望を叶える学校に

南富良野町立南富良野西小学校

加藤 幸一



本校は、平成28年に金山小と下金山小との統合校として誕生しました。金山湖の下、南富良野町西地区を校区とし、広域に

またがっている学校です。校下は、金山ダムを上流に抱き、四季の彩り豊かな山と川に囲まれた山紫水明の地です。

令和4年度は、かわいらしい新1年生2名を迎え、西小っ子20名と教職員11名で学校がスタートしました。令和2年に制定した教育目標「自ら考え、学び合い、高め合う西小っ子の育成」の実現のため、教職員が一丸となって取り組んでいるところです。本校の小規模性を活かし、地域に根ざした教育を推進するとともに子どもも大人も力を合わせてより良い未来を創造する学校づくりに取り組んでまいります。また、より良い未来を創造するため「可能性と希望を導き出す実践」に家庭や地域との連携・協働で取り組む所存です。

生徒が成長を実感できる学校づくり

下川町立下川中学校

桑内 寿則



本校は、SDGsを活用し、持続可能な地域社会の実現に向けて町を挙げて取り組んでいる下川町の唯一の中学校として地

域と連携・協働しながら教育活動を推進しています。特に、幼小中高がつながる森林環境教育等、全教科・全領域でESDの実現を図る特色ある教育課程を展開しております。また「義務教育9年間でめざす姿」の実現に向け、下川小学校との連携を進めております。

今年度は「友と語り、考え、よりよい思考を導く生徒」の育成を重点目標に、生徒同士が大いに議論し、切磋琢磨しながら学校生活を過ごせるよう実践を積み重ねております。地域・家庭・学校が一丸となって、生徒が自身の成長を実感できる学校づくりに努めてまいります。



「いきいきと表現できる生徒」を目指して

中川町立中川中学校

児玉 賢一



本校は昭和22年に中川郡中川村立中川中学校として開校し、75年の歴史があります。

令和4年度は生徒25名、教職員15名でスタートしました。豊かな自然の中で、生徒は毎日しっかりと学習に、行事に、部活動に取り組んでいます。

本年度は「小さな約束を みんなで 本気になって」を合言葉に、「地域社会とともに、確かな学びのある教育の推進」を重点に掲げ、学校教育目標の「いつでも どこでも いきいきと表現できる生徒の育成」に迫ります。また、コミュニティ・スクールとしての連携を一層進め、中川町総掛かりで質の高い実効性のある教育を推進します。

学校・家庭・地域が「チーム中川中」として一丸となり、生徒一人一人の可能性を最大限に発揮できる学校づくりに努めてまいります。

上川教育の推進に向けて

～上士別の特色を生かし

士別市立上士別小学校

杉本 仁



今年度開校120年を迎えた上士別小学校は、天塩川の恵みによる、肥沃な土地に広がる水田

地帯の中、平成28年建設の近代的な校舎で教育活動を行っています。今年度は「まなぶ」「ほころぶ」「やりぬく」を重点目標に、児童個々の特性に合わせた指導を大切にしています。また、小規模校の特色を最大限生かした、地域や校舎の一部を共有する上士別中学校と連携した実践も特徴と言えます。

今年度、士別市へき地・複式教育連盟の公開研を控えており、新学習指導要領下での、複式授業スタイルの創造と授業改善に、全校を挙げて取り組んでいます。本校の特色を生かした、アフリカ支援米の実践や、合同運動会、合同避難訓練等と併せ、ふるさとを愛する心、そして何より上川管内教育が目指す「安心・安全」「学力向上」を実現する学校経営に尽力する所存です。

安心・安全な学校と学力向上のために

士別市立朝日中学校

高橋 悟

令和4年度、全校生徒15名、全職員15名でスタートしています。めざす生徒像・学校像に迫る合言葉として「あ：新たな自分

を創造しようとする生徒」、「さ：支え、認め合い、高めようとする生徒」、「ひ：ひたむきに学び行動しようとする生徒」を全員で確認しています。今、将来を見据え、自分の良さや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な人々との協働のもとに豊かな人生を切り拓いていく力を育む安心・安全な学校が求められています。本年度の重点目標を「主体的に学び、共に成長を実感できる朝中生」と掲げ、学校教育目標の「新しい時代をたくましく生き抜く生徒の育成」に迫ってまいります。ふるさと朝日を愛し、夢と志をもって挑戦する子どもたちと共に、合言葉「あさひ」の実現に努めていきます。

「地域とともにある学校づくり」を目指して

名寄市立名寄東小学校

民輪 伸幸

本校は、地域のコミュニティセンターを併設した学校として、「地域とともにある学校づくり」の推進を基盤に、人と人と

の関わりを大切にした教育実践を積み上げています。特に、コミュニティカレッジ（生涯学習大学）との「合同学習」では、学生の方々に「地域の先生」として学び続ける素晴らしさを子どもたちに示し、本校の応援団として温かく支えていただいています。また、長年続いている「ラベンダー祭り」、文化交流の場の「コミセン文化祭」、冬を彩る「スノーランタンフェスティバル」等の世代を超えた交流では、純朴な子どもたちの笑顔に刺激を受け、元気になれる学生の皆様も大勢いらっしゃいます。

今後もこのような本校の特色である「共生」の理念のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進してまいります。

地域とともに歩む学校を目指して

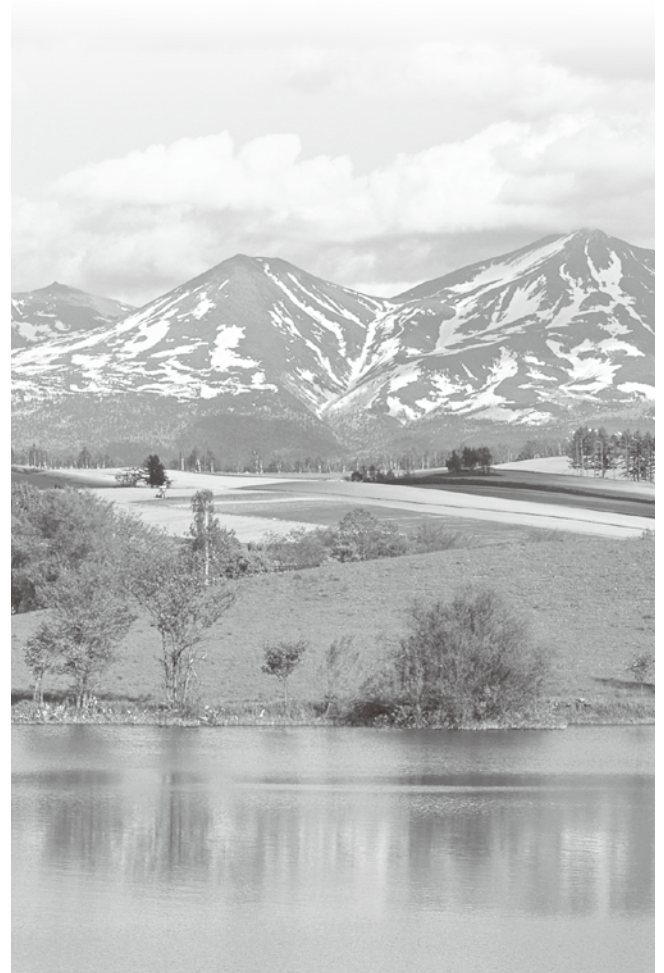
東川町立東川第三小学校

中家 俊幸

本校は、明治33年に開校し、今年で123年目を迎えます。学校教育目標に「夢づくり 未来づくり」を掲げ、保護者、地域

とともに20名の子どもたちの育ちを支えています。特に、PTA活動においては、児童が在籍していない家庭も含めた校下の全戸が会員となっており、コロナ禍でさまざまな制約のある中ですが、学校行事や校外学習等にも積極的に関わっていただいています。地域との連携をはじめとした創意工夫ある取組により、ふるさとを思う気持ちとともに、多様な価値観を子どもたちに身に付けさせる教育活動を進めています。

今年度の子どもの合言葉は「あいさつ日本一の学校」です。地域の方々からも積極的に声かけしていただき、ともに日本一を目指す、というちょっとした「夢」を多くの方々と共有しながら、魅力ある学校づくりに努めてまいります。



「Well-being」を目指した学校づくり

名寄市立風連中学校

中 村 公 暢



今年度で開校77年目を迎える本校は、平成22年に現在の校舎（旧風連高校）に移転し、令和3年度からは風連中央小学校と

の小中一貫教育学校として共通の学校教育目標による教育活動に取り組んでいます。

本年度の重点教育目標は「人・社会・未来とつながるWell-being2022」です。「Well-being～個人的・社会的によりよく幸せに生きること」の実現に向けて、「読書活動」「風中手帳の活用」を特色とした教育活動を、教職員が一体となって推進しています。そして、「安心・安全な学校づくり」と「学力向上の取組」を喫緊の課題として捉え、保護者の協力を得ながらスピード感をもった取組を行っています。チーム学校としての連携体制を充実させ、地域全体で子どもたちを育てる体制を構築できるように、校長としての自覚と覚悟をもって力を尽くします。

地域とともに育てる学校づくり

富良野市立布礼別小学校

牧 健 一



雄大な十勝岳連峰の裾野に広がる豊かな丘陵地にある本校は、今年120周年を迎え、同時に歴史ある学び舎を閉じます。今年度

は、未来へとつながる想いをもち、より深く「故郷布礼別に学ぶ」こと、そして、未来へ羽ばたく準備として「自信をもてる力を伸ばす」ことを目標に掲げスタートしました。児童9名、教職員8名、小さな学校だからこそ一人一人の特性を踏まえ「個別最適な学び」を実現することができます。また、豊かな教育資源があり、様々な分野の専門家がおり、地域の良さを生かした特色ある教育活動を進めています。愛情あふれる教師集団と温かく学校を支えてくださる家庭・地域とともに「一つ一つの学びが布礼別っ子の未来への一歩」と胸に刻み、子どもたちの健やかな成長と笑顔を喜び合える学校づくりに全力で努めてまいります。

「未知に挑む子」を育むために

幌加内町立朱鞠内小学校

山 田 顕 次



ここ朱鞠内は2mを超す雪に覆われる有数の豪雪地帯です。しかし春になれば眼前に広がる豊かな自然の中で、6名の児童

は生き生きと学校生活を送っています。時には地域の方々をゲストティーチャーとして招き、豊富な自然を題材に、地域の特性を生かした教育を行っています。5月には幻の魚イトウの産卵を見学、体験させていただくという貴重な機会に恵まれました。総合的な学習の時間において他教科の学習と関連付けるなど、独自性のある有意義な学習を行うことができました。

規模は小さいですが、少人数・複式であることを利と捉えて、個別の指導計画を作成し、個別最適な学びを推進できる環境にあります。本年度の重点教育目標「未知に挑む子の育成」のとおり、地域や校種間の連携を深めながら社会の変化に対応できる児童を育むべく、職責を全うします。



令和4年度 各部事業計画

経営部

部長 小嶋 高德 (幌加内中学校)
 副部長 小林 真弓 (富良野市立東小学校)
 部員 秋保 利弘 (東川第二小学校)
 部員 佐藤 正和 (温根別小学校)

1 方針

市町村校長会との連携を図り、学校経営に関する法制上の諸問題の研究を深めるとともに、学校経営の充実に資するために校長会組織の強化を図る。

2 推進の重点

- 学校経営の課題の究明と組織の強化
- 学校経営に関する関係法規の研究と情報の収集・提供
- 管内校長会役員選考に関する業務
- 道小・道中経営部との連携

3 事業計画

- 組織強化に関すること
- 法制研究会・教育経営研究会の開催に関すること
- 学校経営に関する法制上の課題把握と関係法規の研究・具体的問題の収集処理に関すること
- 管内校長会役員選考業務の推進に関すること
- 道小及び道中経営部との連携に関すること
- その他、組織・法制及び福利厚生に関すること

4 年間の予定

- 4月15日(金) 第1回経営部理事研修会 ※オンライン
 5月6日(金) 第2回経営部理事研修会
 6月中旬 退職校長会「上川会」業務 中止
 6月24日(金) 第3回経営部理事研修会
 7月19日(火) 第4回経営部理事研修会
 8月2日(火) 法制研究会・教育経営研究会
 8月29日(月) 第5回経営部理事研修会
 12月中旬 第1回役員選考委員会
 1月23日(月) 第6回経営部理事研修会
 2月上旬 第2回役員選考委員会

5 業務分担

- 小嶋
 - 経営部理事研修会の企画立案、推進
 - 法制研究会・教育経営研究会の業務推進、講師依頼等
 - 道小・道中、管内校長会、各関係機関との連絡調整
 - 叙位叙勲調査に関わる連絡・調整
 - 退職校長会「上川会」に関する連絡・調整
- 小林
 - 法制研究会・教育経営研究会の企画、業務推進
 - 経営部理事研修会の司会・進行・オンライン開催業務
 - 次年度役員選考会に関する計画・業務推進
- 秋保
 - 法制研究会・教育経営研究会の具体的計画立案、業務推進
 - 同研究会の質問事項の集約、同研究会の記録・研究のまとめ
 - 叙位叙勲調査準備、発送
- 佐藤
 - 経営部会計業務
 - 経営部理事研修会の会場確保
 - 法制研究会・教育経営研究会の会場計画、記録・研究のまとめ業務推進

6 法制研究会・教育経営研究会について

今年度の「法制研究会・教育経営研究会」は、8月2日(火)に「法制研究会」を午前中、「教育経営研究会」を午後、勤労福祉会館で会同開催する予定である。

研修部

部長 富永 浩司 (上富良野中学校)
 副部長 大垣 幸治 (東聖小学校)
 部員 指川 文徳 (土別小学校)
 部員 中間 靖之 (東神楽中学校)
 部員 石坂 剛 (風連中央小学校)

1 方針

- 学校経営及び教育活動の交流を通して、豊かな人間性を育てる教育課程の編成に努めるとともに、市町村及び地区ごとの研修を一層活性化し、その成果を管内的に積み上げ集約していく。
- 道小研究大会・全連小研究協議会及び道中研究大会・全日中研究協議会への積極的な参加を推進し、その成果を管内教育の深化・充実に生かすように努める。

2 推進の重点

- 事務局との連携強化を図る。
- 旭川市小学校長会・旭川市中学校長会、関係機関との連携強化を図る。
- 部内協議の効率化(メール等の活用)と業務推進状況の情報共有化を図る。

3 事業計画

- 管内・地区の研修組織及び運営と連絡調整に関すること
- 道小・道中研究大会及び全連小・全日中研究協議会に関すること
- 会員の研修に関すること
 - 上川管内公立小・中学校長教育研究大会の開催
 - 今日的な課題に関する研修会の開催
- 研修資料の収集・提供に関すること
- 研究のまとめ「啐啄」の編集と発行に関すること
- 道小・道中研修部との連携に関すること
- 上川管内公立小・中学校会研究主題の策定に関すること
- その他、研究・研修に関すること

4 年間の予定

- 4月15日(金) 第1回研修部理事研修会
 4月26日(火) 第2回研修部理事研修会
 4月27日(水) 第1回三校長会研究担当正副部長会議
 5月6日(金) 第3回研修部理事研修会
 〃 上川管内市町村研修担当者会議開催
 6月17日(金) 第2回三校長会研究担当正副部長会議
 8月3日(水) 上川管内公立小・中学校長教育研究大会
 9月9日(金)・10日(土) 道小研究大会旭川大会
 10月13日(木)・14日(金) 全連小研究協議会島根大会
 10月20日(木)・21日(金) 全日中研究協議会札幌大会
 10月28日(金) 第3回三校長会研究担当正副部長会議
 11月22日(火) 第4回研修部理事研修会
 1月20日(金) 第5回研修部理事研修会
 2月28日(火) 啐啄発行

5 業務分担

- 全体計画・・・富永
- 会計・・・石坂
- 「啐啄」の編集と発行・・・石坂・指川
- 市町村研修担当者会議・・・全員
- 全連小、道小研究大会・・・指川・大垣
- 全日中、道中研究大会・・・中間・富永
- 管内教育研究大会・・・全員
- 今日的な課題研修会・・・中間

6 その他

- 業務の推進に当たっては、事務局との連携を密にし、方針並びに推進の重点の達成に努める。
- 管内公立小・中学校長教育研究大会の業務推進にあたっては、研修部の各担当係を窓口としながら、メールを活用し連携を密にして業務を推進する。
- 円滑な業務推進を図るため、研修部内の打合せや連絡・報告を確実にし、資料や記録の集積の徹底を図る。

令和4年度各部事業計画

広報部

部長 富居 充孝 (士別南中学校)
 副部長 小林 勝彦 (名寄西小学校)
 部員 田畑 幹夫 (布部小中学校)
 部員 加藤 信彦 (当麻中学校)
 部員 桑原 久美 (山部小学校)

1 方針

- (1) 広報活動を通し、各種情報を的確に提供することにより、会員の意識の高揚と組織活動の強化・充実に努める。
- (2) 市町村校長会との連携を図り、各種調査等を実施し、各学校の有効な経営に資するため、資料の収集に関する業務の推進に努める。

2 推進の重点

- (1) 会員相互の交流を通して、学校経営に寄与できる会報の発行に努める。
- (2) 各種調査等を実施し、各学校の有効な経営に資する資料の収集に努める。

3 事業計画

- (1) 会報の編集と発行(年3回)に関する事
- (2) 各種調査の企画・実施に関する事
- (3) 統廃合学校に関する事
- (4) 道小及び道中対策部・情報部との連携に関する事
- (5) その他情報の収集・提供・蓄積に関する事

4 年間の予定

- 4月 第1回広報部理事研修会(業務分担、内容確認)
第2回広報部理事研修会(年間計画・会報157号発行計画検討)
会報157号原稿依頼
- 6月 第3回広報部理事研修会(会報157号校正、会報158号発行計画検討)
会報157号発行 会報158号原稿依頼
- 9月 統廃合資料依頼文書発送
- 10月 第4回広報部理事研修会(会報158号校正・会報159号発行計画検討)
会報158号発行、159号原稿依頼
- 12月 第5回広報部理事研修会(会報159号校正・業務反省)
- 2月 会報159号発行

5 業務分担

- (1) 会報の編集・発行
157号(田畑) 新入会員の抱負、各部の活動計画など
158号(加藤) 各校長会の活動、会員の声など
159号(桑原) 勇退校長惜別の言葉など
- (2) 道小・道中との連携・・・小:小林、桑原
中:加藤、田畑
- (3) 統廃合調査、資料収集・・・富居
- (4) 上川学協理事・・・・・・代表:富居(全員で分担)
- (5) 北海道交通安全対策・・・・代表:富居(全員で分担)

6 その他

- (1) 会報の発行予定
6月24日(金)、10月27日(木)、2月3日(金)

